

電通調査

消費者が選んだ2007年 話題・注目商品の説明

新しい発想と感覚、多数で楽しめることが人気の主流

電通消費者研究センターはこのほど、毎年恒例の「消費者が選んだ2007年話題・注目商品」を発表しました。ベスト20は表の通り。これらの商品が選ばれた背景には「話のネタになる商品・サービスに消費者が共振するメカニズムが働いた」(電通)ということで、実際、ネタとして大いに話題になった商品が目立ちます。08年につながる消費者の傾向を探れるものなので、参考までにベスト10までの商品・サービスの中味を調べてみました。

-消費者が選んだ2007年の話題・注目商品ベスト10-			
1位	ペンタッチ携帯ゲーム(5位)	6位	ワンセグ対応端末(10位)
2位	新感覚リモコンTVゲーム(44位)	7位	邦画(24位)
3位	『ピリーズブートキャンプ』(-)	8位	カップ入りスープ(-)
4位	デジタルカメラ(-)	9位	電子マネー(21位)
5位	大画面薄型テレビ(2位)	10位	エコグッズ(64位)

11位-20位	11位 『千の風になって』(-)	16位	デジタル一眼レフカメラ(-)
	12位 家族割引サービス(-)	17位	宮崎県産品(-)
	13位 動画共有サイト(50位)	18位	おでん缶・ラーメン缶(-)
	14位 SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)(17位)	19位	メジャーリーグ(-)
	15位 黒い烏龍茶(-)	20位	薄型デザイン携帯電話(40位)



この調査は約150アイテムの話題・注目商品候補を対象としたインターネット調査で「知っている」「興味がある・あった」「流行っている・いた」の3項目を合計して上位となった項目です。全国15歳以上の男女1000人が対象(カッコ内は昨年順位)。

①ペンタッチ携帯ゲーム

任天堂が開発、販売している携帯用ゲーム機「ニンテンドーDS」=写真=のこと。今は画面が明るくなった新機種「ニンテンドーDSライト」が主流。二つの液晶画面にマイク、操作ボタンがあり、本体にゲームソフトを差し込んでプレイします。

最大の特徴は従来のようにキーやボタンを操作する方法ではなく、タッチパネル（スクリーン）と内蔵マイクで音声認識できること。付属のタッチペンでパネル上のアイコンに触れて、文字や絵を手書きしたり、画像の移動、ページのジャンプなどができ、音声を認識してゲームに活かせることもできます。また、無線通信機能があって友達や家族が通信しながらゲームを楽しめます。従来はキーやボタンを操作するだけでしたが、発想とやり方を変えた技術革新のおかげで、世界的な大ヒットになっています。

ゲームソフトは様々なゲームだけでなく、画面の中で犬を育てて楽しむなどの癒し効果のものや、流行りの脳トレ、学習・実用系のソフトなどがあり海外でも大きな人気を呼んでいます。

②新感覚リモコン TV ゲーム

これも任天堂の家庭用ゲーム機「Wii」のこと。小さな携帯型ではなく据え置き型。「DS」と違って、テレビ画面を使い、本体にソフトを差し込んでコントローラーをテレビ画面に向けて振り回したり、ひねったり、指さしたりして感覚的にプレイできるゲームです。体を動かして遊ぶ新しい感覚が受けて、子供から大人まで楽しめ人気を呼んでいます。プレイヤーの動きがゲーム内の動きとほとんど同じになるのがおもしろいようです。銃撃戦やチャンバラ、冒険、フィットネスなど多数のソフトがあります。



本体とコントローラー(右)



③ビリーズ・ブート・キャンプ(Billy's Boot Camp)

ビリー・ブランクスが考え出した短期集中型（1週間程度）のエクササイズとそれを収録した映像ソフトのこと。米軍の新人向け基礎訓練であるブートキャンプがベース。機械は使わず、独特の体の動きをします。それぞれのペースに合わせて取り込み、正しく実行できれば有酸素運動になるということで、健康管理、肥満防止などを気にする人たちの間で人気。特に、ボディーラインを気にする芸能人のファンが多いといわれます。しかし、ケーブルテレビなどのPR画面を見ていると、運動不足の高年齢者が突然やると、心臓発作を起こしかねないハードな運動に見えます。DVDの3本セットは全世界で1000万本を販売したといえます。

④デジタルカメラ

簡単に言うと、従来のカメラのフィルムに相当する部分を電子センサーとフ

ラッシュメモリーで置き換えたもの。静止画を記録する「デジタルスチルカメラ」と、動画を記録する「ビデオカメラ」に分かれます。最大の特長は、撮影した画像を撮影直後に確認でき、不要な画像を消したり、撮影しなおすことができます。パソコンに取り込んでプリントや画像編集ができ、家庭用プリンターでも手軽に印刷できます。インターネットを通じて他人に送ることもできるなどいろいろ便利です。機構が複雑で高価になりがちですが、メーカーの技術進歩もあってデジタル機器の中では早いペースで普及が進んでいます。

06年のデジカメ総出荷実績は7898万台で対前年比21.9%伸びました。日本のメーカーが世界シェアの9割を占めています。

⑤大画面薄型テレビ

液晶パネルを使う液晶テレビとプラズマパネルを使うプラズマテレビが主流。技術開発競争がし烈。液晶の応答速度改善や大画面化、薄型化が進み、プラズマは省電力技術の確立も目指しています。大画面テレビはおしゃれなインテリアにもなり、映画などをソファに座って見れば、くつろぎ、いやしの空間を作ってくれるということもあって人気を高めています。

⑥ワンセグ対応端末

地上デジタル放送は1チャンネルの帯域を13のセグメント（区分、分節の意味）に分けた12の帯域を使って放送されています。残りの一つ（ワンセグメント）の電波を利用した放送を「ワンセグ放送」と言います。映像、音声、データの混在が可能になったため、2006年4月から携帯端末などに流すことになりました。これに対応した携帯電話が登場し、人気を呼んでいます。録音機能も可能。ワンセグの受信は無料ですが、電池の消耗も早くなります。

なお、携帯端末にはノートパソコン、専用チューナー、車載テレビなどがあります。

⑦邦画

06年の日本映画の興行収入は21年ぶりに外国映画を上回りました。今年には興行収入で100億円を超える作品はなかったものの、「HERO」（78億円）「劇場版ポケットモンスターダイヤモンド・パール」（50億円）、「西遊記」（41億円）、「武士の一分」（40億円）など大型ヒットが出て好調。もっとも、今年には外国映画も再び邦画を上回る勢いとか。一時期、大幅に落ち込んでいた映画館の入場者数は毎年、1億6000万人を回復しています。

元気回復の背景には大型ショッピングセンターなどにも登場しているシネコン（シネマコンプレックス＝複合型映画館）の普及や広い座席、大型スクリ

ーンなどきれいな映画館の増加、時間や年齢による料金割引制度などがあります。

⑧カップ入りスープ

春雨や野菜を使い、低カロリーで内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）対策にもなるとの理由で人気が出ました。特に一人暮らしや不規則な生活になりがちな OL たちが「手軽にできるし、3食きちんと食べられる」などの理由で歓迎しています。「飲むスープから食べるスープ」という新しい食メニューの発想がヒットを生んだ理由。「具たくさんスープ」の商品からヒントを得たもので、女性たちにはカップ麺と異なるおしゃれな軽食感覚が新鮮なようです。

春雨系、パスタ系、その他系に大別され、これらにコラーゲン配合、豆乳仕立て、海草入りなど美容と健康をキャッチフレーズにした新商品が続々、登場しています。

⑨電子マネー

貨幣的価値を伴った電子媒体のこと。つまり、貨幣という物によってやり取りされていたところを電子的なデータとデータ通信により決済する方法。インターネットを利用した電子商取引の決済手段として使われるほか、交通乗車券やコンビニでの決済などでも利用が進んでいます。貨幣価値データをコンピュータのメモリーなどに記憶させ、ネット上で流通させるネットワーク型電子マネーと IC カードのチップに記憶させる IC カード型電子マネーなどがあります。利用者にとっては通貨のように機能しますが、実質は通貨によって先払いされた金銭価値をデータ化したり、決済段階でデータをやり取りし、その金額に応じて、予め先払いされた通貨から支払われるかたちです。

⑩エコグッズ

エコロジーグッズの略。エコロジーとは生物相互の関係や、生物と環境の関係を解明する生物学の一分野です。要するに、自然と人に配慮した環境製品のこと。地球温暖化、環境汚染が世界的に大きな問題になり、食品、飲料、電化製品などあらゆる分野で人と地球にやさしい商品づくりが盛んになっています。

まとめ (株)大阪彩都総合研究所
主任研究員 橋本 剛